

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 3 日現在

機関番号：47118

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370652

研究課題名(和文)日本の食育と食文化を世界に発信できる栄養士養成のためのEAP

研究課題名(英文)EAP to Train Dieticians to Transmit Japanese Food and Food Culture to the World

研究代表者

津田 晶子 (TSUDA, AKIKO)

中村学園大学短期大学部・食物栄養学科・准教授

研究者番号：30462089

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本の食育と食文化を英語で発信できる栄養士を養成するEnglish for Academic Purposesプログラムを構築することを目的として、国際学会や専門科目の講義の参与観察をもとにニーズ分析を実施した。その結果、卒業後、病院、保育園、企業などで栄養士として活躍する学生のために、異文化間コミュニケーション能力の養成が肝要であり、日本人・外国人英語教員、専門教員の協業による、CLILプログラムが適したアプローチであることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：With the aim of creating an English for Academic Purposes program to train students capable of transmitting Japanese food and food culture to the world, I conducted a needs analysis by observing participants of international conferences and students in classes using technical English. The results show that for students to engage in work as dietitians upon graduation at workplaces such as hospitals, nursery schools and businesses, the fostering of intercultural communication skills is essential. It was found that CLIL programs based on collaboration of Japanese English instructors, native English instructors, and subject teachers was suitable for this purpose.

研究分野：英語教育

キーワード：EAP ESP CLIL 栄養士 和食 食文化 異文化間コミュニケーション 食育

1. 研究開始当初の背景

2005年に食育基本法が制定され、基本的施策の一つに「食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進」がある。2008年、栄養士の国際的な学术交流の場である第15回国際栄養士会議(International Confederation of Dietetic Associations。以下、ICD、1952年創設)が、日本で初めて開催され、各国の栄養士および栄養学者が日本に参集し、栄養問題、栄養政策、栄養教育および栄養士活動等に関して、研究発表・意見交換する場がもたれた。その後、2012年8月にシドニーで第16回ICDが開催され、2014年8月には台北でアジア栄養士会会議の開催が予定されているが、いずれの国際学会においても、発表言語は英語であり、今後は、栄養学における学術的目的での英語ニーズが増えることが考えられる。

しかしながら、2012年に研究代表者が実施した、日本全国の栄養士・管理栄養士養成校を対象にした英語教育の実態調査では、日本国内で栄養学のEAP研究が立ち遅れていることが明らかになっている。

その理由として、厚生労働大臣から指定認可された栄養士養成校では専門教育に対する要求水準が高く、語学教育までは配慮が行き届かないことや、多くの養成校が単科大学や小規模校であり学科専属の英語教員が配置されていない、専門教員と英語教員間での協力体制がないといったことが考えられる。食の国際化に対応するため、栄養系の英語教育の確立が望まれている。(科研費基盤研究2011-2013研究課題：地域の国際化に貢献する栄養士養成のためのESP: ニーズ分析と教材開発「栄養士・管理栄養士養成校における英語教育の実態調査報告書」津田晶子, 2013)

2. 研究の目的

本研究では、日本の食育と食文化を世界に受けて発信できる栄養士・管理栄養士を養成するため、栄養学のEAPプログラムを構築することを目的として、栄養学研究者の英語圏大学での学術研究や国際学会での英語ニーズを分析し、栄養系学生が自律的に学習するための教材とカリキュラムを構築することを目標とした。

2. 研究の方法

栄養系学生の英語ニーズを分析するため、文献研究、日本栄養改善学会での参与観察、英国、カンタベリーにおいて、日本人栄養系学生向けの栄養学・英語研修において、イギリス人栄養士のレクチャーと病院見学、高齢者施設見学における参与観察を実施した。

また、ヨーロッパの高等教育の教員向けCLILのワークショップ(英国、オックスフォード)へ参加し、栄養学、食文化、食育を英語という内容(Content)を英語で学ぶための教材とアクティビティを開発した。

4. 研究成果

栄養士養成校の英語ニーズ分析は以下のとおりである。

Present Situation Analysis (現在のニーズ)

英語の学習歴、モチベーション、習得レベル、海外渡航歴は、年々、多様化している。栄養系学生のキャリアゴールは明確であり、英語には興味がある学生も多い。

専門の授業は日本語で行われているが、海外研修や外国人研究者による講義を受ける場合もある。

Target Situation Analysis (将来のニーズ)

大学院に進学し、研究者を目指す場合は、栄養学の国際ジャーナルを読むことが必要となるものも一部いる。しかしながら、大半

の栄養系学生は、保育園、病院、高齢者施設の栄養士となるため、地域の外国人居住者に対して、専門知識をもとに、英語による栄養相談を提供できる good communicator になることが全員に望まれる短期的目標である。

上記のニーズ分析をもとに、大学、短期大学の栄養士養成校における栄養英語の CAN-DO List を作成した。

読む	簡単な英語のレシピを読むことができる。
聞く	料理番組を理解できる。 外国の食文化についての講義を理解できる。
話す	自国や地域の食文化や食習慣をペアやグループで話すことができる。
書く	簡単な英語のレシピを書くことができる。
語彙	栄養学や調理学に関する基本的な語彙を運用できる。

研究代表者の所属機関である中村学園短期大学部食物栄養学科では、2年前期に EAP 科目「実用栄養英語」を開講しており（90分 x 15回）この授業において、以下の4点を考慮しながら、CLIL を導入した。

Culture: 宗教的な禁忌やベジタリアンについて基礎知識を身につけ、自国の郷土料理を含め、世界各国の料理に親しむ。

Content: 良い食習慣、食物アレルギー、食品由来の疾病について学ぶ。

Communication: プレゼンテーション、ペアワーク、グループワークを通じてコミュニケーション能力を向上させる。

Cognitive Skills: 多様なタスクを通じて、よりよい外国語学習者になる。

この授業では、専門教員（栄養学、調理学）や外国人教員をゲストとして招き、学生が作成した和食の英文レシピをそれぞれの観点から評価してもらうことで、英語教員と専門

教員、日本人教員と外国人教員が協業し、言語と内容の両方の観点から学生のアセスメントをすることを試みた。

授業をアクションリサーチした結果、以下の知見が得られた。

専門語彙の習得が最重要課題である。日本の食育や食文化を発信するのに、高度な文法の運用能力は必要とされないが、食品や栄養、調理に関する英語の語彙は高校卒業までに教科書で扱っていない場合が多いことが明らかになった。可能であれば、英語教員だけでなく専門教員との協業が望ましい。特に学生のアセスメントにおいては、英語教員の評価と専門教員の評価が必ずしも一致しないことが多々あることが分かった。

この研究の成果をもとに、ニーズ分析を継続的に実施し、外国語教員と専門教員の協業に基づき、日本人の栄養系学生だけでなく、一般の学生や日本で学ぶ学生が日本の食育・食文化を学ぶための CLILL プログラムを構築したい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

津田晶子、松隈美紀、大和孝子、『栄養系学生による英語レシピ作成』。栄養学雑誌「巻：73-5 ページ：327

栄養学雑誌「巻：73-5 ページ：327

〔学会発表〕(計 7 件)

津田晶子、松隈美紀、大和孝子、『栄養系学生による英語レシピ作成』第 62 回日本栄養改善学会学術総会、福岡国際会議

場、福岡市、2015年9月

Akiko TSUDA, "Autonomous language learning for food literacy and

intercultural communication", FLEAT, Harvard University, Boston, USA.,

2015年8月

津田晶子, 『グローバル人材育成のための CLIL (内容言語型) 教授法』、中村学園大学外国語部門 FD 研修会、中村学園大学、福岡市、2015年6月

津田晶子, ダルシー・デリント、

『初年次英語教育における Teacher Collaboration の意義と課題』、JACET 九州東アジア英語研究会、西南学院大学、福岡市、2016年5月

TSUDA, Akiko, CLIL Project for Shokuiku, JALT 2016、ウィルあいち、名古屋市、2016年11月

TSUDA, Akiko, Content and Language Integrated Learning (CLIL) for UNESCO Cultural Heritage of Food: A Case Study of Japan,

Language 3000, 南洋工科大学、Singapore, 2017年2月

津田晶子, 『CLIL で学ぶ和食：英語教員と専門教員の協業による事例報告』日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL) 第2回研究発表会、早稲田大学、東京、2017年5月

〔図書〕(計 1 件)

TSUDA, Akiko, 他、Tim Stewart (編) TESOL Press, "Voices from the Classrooms: Higher Education", 2017

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
www.akikotsuda.com

6. 研究組織
(1)研究代表者
津田 晶子 (TSUDA Akiko)
中村学園大学短期大学部・食物栄養学科・准教授
研究者番号：30462089

(2)研究分担者
()
研究者番号：

(3)連携研究者
松隈 美紀 (MATSUGUMA Miki)
中村学園大学短期大学部・食物栄養学科・教授
研究者番号：40259669

吉田 弘子 (YOSHIDA Hiroko)
中村学園大学短期大学部・食物栄養学科・准教授
研究者番号：30321293
(4)研究協力者
()